

# 水源地域活性化活動の実施に向けて

(水源地域活性化調査報告書)



平成25年3月

国土交通省水管理・国土保全局  
水資源部 水資源政策課水源地域振興室



# 1. はじめに

水源地域は、水源を支える里として、また、日本の原風景や伝統文化を遺す地域として、維持・保全していくことが不可欠です。

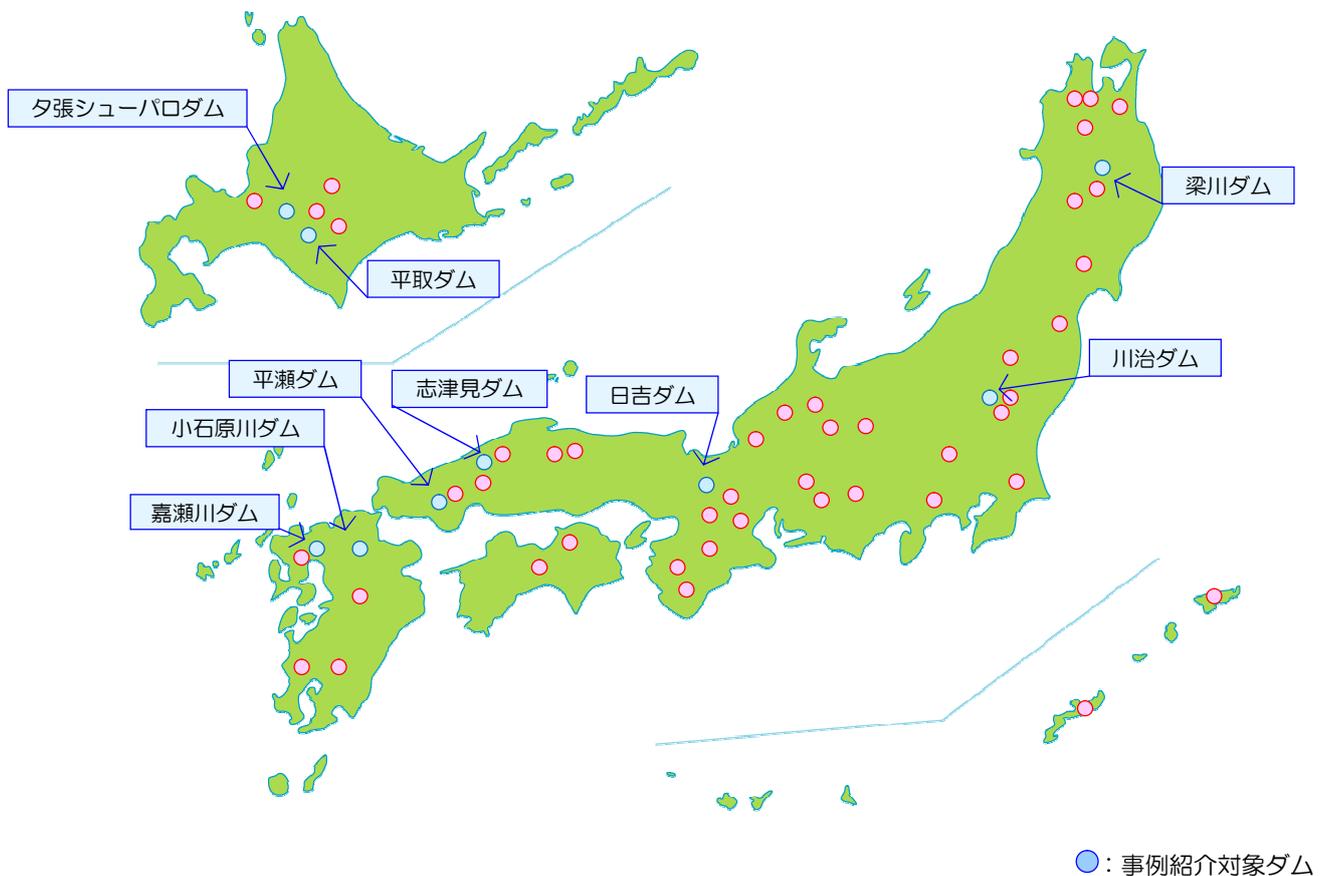
しかし、現在、高齢化が進む中で、集落、地域社会の疲弊が進んでいる地域が多く、早急な対策が必要となっています。

そこで、国土交通省では、昭和 62 年度から平成 23 年度までダム等を含めた各種の資源（森林・水・観光資源・物産・文化財等）を活用しながら、水源地域の活性化を目的とした活動の企画・立案、実施（試行）、評価について調査・検討を行う「水源地域活性化調査」を実施してきました。

今回は、これまで実施した「水源地域活性化調査」の実施結果や、その後の取組状況を踏まえ、地域の担い手（市町村の担当者や、NPO 法人、観光協会の関係者等）が水源地域活性化活動を実施していくためのポイントをご紹介します。

本書では、水源地域活性化調査の目的などを踏まえ、下記の要素を満たした活動に着目しました。

- ・実施主体が継続して存続している
- ・取組が継続・発展的に実施されている
- ・取組内容は変更されたが、水源地域活性化につながる他の取組を実施している



水源地域活性化調査実施箇所（昭和 62 年度～平成 23 年度）

## 2. 事例紹介

これまで、水源地域活性化調査を実施した地域の中から、①水源地域対策特別措置法の指定を受けたダム、②近年、水源地域活性化調査を実施したダムに該当する9ダムにおける活動内容をご紹介します。

### (1) 川治ダム（栃木県日光市）

#### ◆実施主体

川治温泉“水のふるさと”いきいき発見推進協議会

#### ◆水源地域活性化調査時の活動内容

##### ①体験プログラム開発及び人材育成

- ・男鹿川・大下沢のフィールド調査、川治ダム湖・五十里ダム湖でのカヌー・カヤック調査、ノルディックウォーキング調査やインストラクター講習会、カヤック体験等を実施。

##### ②地産地消をテーマとした“食”のメニュー開発

- ・ホテル・旅館での新メニューの開発・試作、川治ならではのB級グルメの開発検討。
- ・川治温泉のイベント「ふれあい秋の縁日」及びモニターツアーにて試食会・アンケートを実施。

##### ③温泉街の回遊性の向上と“おもてなし”の仕組みづくり

- ・川治の水でお茶を入れ、観光客をおもてなしするプロジェクトを推進。
- ・道祖神や「かわじい」のモニュメントを有効活用し、スタンプラリーを実施。

#### ◆地域の関わり

川治ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「協議会」が中心となり、「川治温泉旅館組合」、「川治温泉観光協会」、「川治商店会」、「川治飲食店組合」、「行政」、「都市住民」の7主体が連携して実施しました。

各主体の役割分担

	指揮者・リーダー	起案者・発案者	専門家・助言者	宣伝者	事務者	支援者・後援者	同好の士・同調者
協議会	●	●		●	●		
(川治温泉旅館組合)	●	●		●	●		
(川治温泉観光協会)	●	●		●	●		
(川治商店会)	●	●		●	●		
(川治飲食店組合)	●	●		●	●		
行政						○	
都市住民						●	
マスメディア				●			

●水源地域活性化調査以降も継続  
 △水源地域活性化調査以降は撤退  
 ○水源地域活性化調査以降に参画

#### ◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で得られたノウハウ等を活かし、有限会社ネイチャープラネットと連携しながら年間を通じた体験プログラムの提供（ノルディックウォーキング体験、カヌー体験、山菜採り体験、ガイド付きハイキング、スノーシュー体験など）や、地域活性化のコーディネーターの育成、養蜂事業、オリジナル紅茶開発事業などを実施しています。

さらに、2010年に閉校となった「日光市立川治小学校・中学校」の学校跡地の活用策を日光市とともに検討しています。

#### ◆課題

収益事業を実施していないため、行政等の補助金に頼らざるを得ない状況になっています。

補助金等の情報も含め、行政からの情報提供がないため、活動を実施するための情報を自ら収集していく必要があります。

#### ◆まとめ

川治ダム水源地域では、地域との関わりが深い既存団体からなる協議会を立ち上げることにより、実施主体の明確化や地域内での認知が促進され、活動が推進しやすい環境を整えることができました。

また、マスコミへの積極的な情報提供をすることにより活動を取り上げられ、地域内外に活動を発信することが可能となり、活動の認知や参加者の増加につながりました。

さらに、モニターツアーの実施や、試食会などを通して得られた消費者の声をもとに、商品（体験プログラムや特産品など）を改良するとともに、人気が高い体験プログラムを洗練させていき、ここでしか体験できない価値の創造を目指しています。



ノルディックウォーク実施エリア



スノーシュー体験実施エリア

活動の流れ (川治ダム)

内容/西暦		1945 (昭和 20) 年	1970 (昭和 45) 年	1983 (昭和 57) 年	2009 (平成 21) 年	2010 (平成 22) 年	今後
ダム建設	経緯		川治ダム事業着手 (1970)	川治ダム竣工 (1983)			
	水特法関係		水特法指定【全国第一号】(1973)	水源地域整備計画策定 (1975)			
社会環境	その他		五十里ダム竣工 (1956)	川俣ダム竣工 (1956)		湯西川ダム竣工 (2012)	
	小中学校の開校・閉校		※開校は明治 7 年	旧藤原町 日光市に合併 (2006)	合併により日光市立川治小学校・中学校に改称 (2006)	日光市立川治小学校・中学校閉校 (2010)	
活動内容	組織設立		川治活性化推進協議会 (1995 年)	川治温泉“水のふるさと”いきいき発見プロジェクト発足 (2009)	構成員 (役員構成) ・川治温泉旅館組合 ・川治自治連絡協議会 ・川治飲食店組合 ・川治振興青年会 ・おしあきぬ漁業協同組合 川治支部		
	取組内容		カヌー体験 スノーシュー体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>＜川治温泉旅館組合/川治温泉飲食店組合＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地産地消をテーマとした“食”メニュー開発</li> <li>・ホテルや旅館でのメニュー開発/試食会およびアンケートの実施</li> </ul> </li> <li>＜川治温泉商店会/鬼怒川・川治温泉観光協会＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 温泉街の回遊性向上と“おもてなし”の仕組みづくり</li> <li>・川治の水で入れたお茶のおもてなしプロジェクト/道祖神や「かわいしいモニュメント」を活用したスタンプラリーの実施</li> </ul> </li> <li>＜川治温泉旅館組合＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 体験プログラム開発及び人材育成</li> <li>・フィールド調査/カヤック体験/ノルディックウォーキング体験 ノインストラクター講習会</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【今後の取組み】 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 葛嶺事業 (2011.7)</li> <li>■ 農業体験プログラム開発 (2011.7)</li> <li>■ 人材育成および普及活動 (2011.7)</li> <li>■ 学校跡地活用 (2011.6)</li> <li>■ オリジナル紅茶開発事業 (2012.9)</li> </ul> </li> </ul>	中断 継続	
国土交通省 支援事業	関連団体との連携		(有)ネイチャープラネット設立 (2005)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 年間を通じた体験プログラムの提供</li> <li>ノルディックウォーキング体験</li> <li>カヌー体験/山菜採り体験</li> <li>ガイド付きハイキング/スノーシュー体験</li> <li>■ 地域活性化のコーディネート/育成</li> </ul>	業務委託		
	水源地域活性化調査		水源地域活性化調査 (2009)				水源地域活性化調査での活動内容

## (2) 志津見ダム（島根県飯南町）

### ◆実施主体

島根県飯南町、学生サークル（島根大学）

### ◆水源地域活性化調査時の活動内容

#### ①資源調査・再商品化

- ・学生サークルと専門家が、飯南町の生産者を訪問し、地域資源の再商品化と商品群の抽出を実施。
- ・学生サークルが生産者と共に販売商品群を選定し、値付けやラベル作成等商品化。

#### ②産直市の開催

- ・学生サークルと大阪の学生グループが、飯南町や周辺地域の生産者と共に、地元の産品を直送して、大阪の商店街で産直市を開催。

#### ③源流田舎ツーリズム事業

- ・学生サークルと大阪の学生と大阪の商店街地域の住民が、飯南町への産地訪問交流を行う「源流田舎ツーリズム」のモデルツアーを実施。

#### ④シンポジウム開催

- ・生産者と行政等関係者、学生、大阪の商店街や専門家等と、水源地域対策アドバイザーが一同に介して、シンポジウムを開催。
- ・事業の検証と他地域への水平展開を討議し、今後の事業継続のために、協働の団体を結成。

### ◆地域の関わり

志津見ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「学生サークル」が中心となり、「都市部の学生」、「商店街関係者」、「都市住民」、「地元組織・住民」、「行政」、「アドバイザー」の7主体が連携して実施しました。

各主体の役割分担

	指揮者・リーダー	起案者・発案者	専門家・助言者	宣伝者	事務者	支援者・後援者	同好の士・同調者
学生サークル	●	●		●	●		
都市部の学生							●
商店街関係者						●	
都市住民							●
地元組織・住民	○	○		○	○	●	
都市部の企業						○	
行政					△	●	
アドバイザー			△				

●水源地域活性化調査以降も継続  
△水源地域活性化調査以降は撤退  
○水源地域活性化調査以降に参画

#### ◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で得られたノウハウ等を活かし、地域住民自らが「積極的な販路拡大」を始めました。さらに、生産量の増大を図るために「加工施設の新設」を予定しています。

また、学生サークルについても、継続的に大阪市内の店舗や、インターネットを活用して農産物等を販売しています。

#### ◆課題

助成金などを活用して事業の継続、発展を目指していますが、地域住民だけで助成金の情報を獲得し、申請書等を記載することは困難となっています。

また、水源地域活性化活動を推進していくためには、関係者をつなぐコーディネーターが必要となっています。

#### ◆まとめ

志津見ダム水源地域では、地域で活用されていないが価値のある資源（例：規格外の農産物等）を学生と発見することが、特産品や体験ツアーの試行につながりました。

また、都市住民のニーズを把握するために積極的に産直市などに参加し、商品の強みと問題点を把握することが、商品の改良につながりました。

さらに、学生と連携して活動を実施することが、地域住民が自らの地域の価値に気がつき、農産物等の販路拡大や特産品の開発に積極的に携わるようになりました。

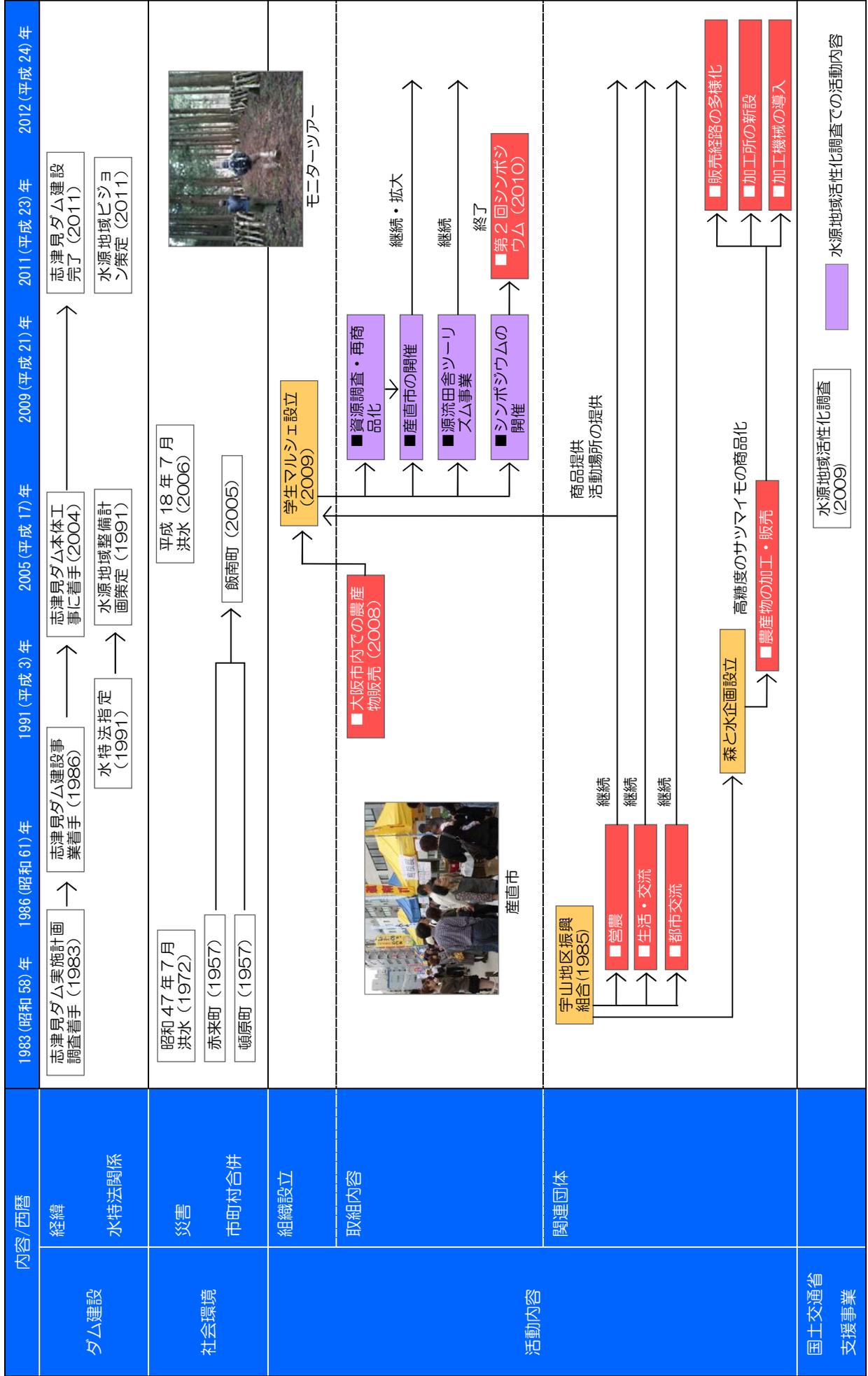


産直市の様子



モニターツアーの様子

活動の流れ (志津見ダム)



### (3) 嘉瀬川ダム（佐賀県佐賀市）

#### ◆実施主体

ふじねっと（その後、株式会社インビル）

#### ◆水源地域活性化調査時の活動内容

##### ①旅館・農家が連携した新たな特産品開発

- ・地域で栽培されている農産物を加工した「里山のおばあちゃんが作った真空パック詰めのお惣菜」を試作。
- ・商品を販売するために農産物直売所や小売店でのヒアリング・現地調査を通して商品の販売促進に向けた方向性を整理。
- ・富士町産品の詰め合わせセット「ふじから便」の可能性を模索。

##### ②間伐材の有効活用

- ・富士町の間伐材の有効活用を目指し、積み木商品の開発を実施。

##### ③観光商品の開発

- ・富士町の魅力を発信するための観光商品の開発を行い、5種類のモニターツアーを試行。

#### ◆地域の関わり

嘉瀬川ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「活動団体」が中心となり、「行政」、「生産者」、「関連団体（温泉組合、森林組合など）」、「専門家」の6主体が連携して実施しました。

各主体の役割分担

	指揮者・リーダー	起案者・発案者	専門家・助言者	宣伝者	事務者	支援者・後援者	同好の士・同調者
活動団体 (会社組織)	●	●		●	●		
行政						●	
生産者						●	
学生サークル						○	
関連団体						●	
専門家						△	
企業						○	
都市住民							●

●水源地域活性化調査以降も継続  
△水源地域活性化調査以降は撤退  
○水源地域活性化調査以降に参画

#### ◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で得られたノウハウ等を積極的に活用するために、任意団体であった『ふじネット』を解散し、新たに会社組織を立上げ、活動を継続しています。

また、水源地域活性化調査で実施したツアーの開催などを継続するとともに、「学生サークル」と連携しながら、遊休農地を活用した体験プログラムの開発や、社会人ゼミ旅行の誘致などを推進しています。さらに、都市部の企業と連携し、地域の農産物を使用した『冷製スープ』等の開発・販売だ

けでなく、地域外の活動団体と連携した『まちづくり勉強会』の開催や、行政から委託を受け集落の巡回や状況把握等を実施しています。

◆課題

会社組織を立ち上げたばかりであるため、資金の工面に苦労しています。資金面については、関連する組織から情報や知識を得ることで運営することができています。

地域や行政からは、地域活性化活動に対するニーズはありますが、人材、資金面で余裕がないため、対応できない場合があります。

また、地域で単発の取組を実施するだけでは、地域住民や地域の各種団体との関係を構築することができなかつたため、継続して地域のイベント等に参加しました。

◆まとめ

嘉瀬川ダム水源地域では、水源地域活性化活動の基礎となる農産物や地域資源を関係者で共有することができ、特産品や体験プログラムの開発を地域が一体となって実施することができました。

また、水源地域活性化活動終了後、任意団体であった活動主体を、法人格を有する株式会社に立ち上げ直すことで、対外的な信頼が向上し、行政と連携した活動がしやすくなりました。

さらに、株式会社の立上げにあたり、行政の庁舎内に設置していました事務所を地域の遊休物件に移すことで、地域住民が集いやすくなり、地域住民との深い関係を構築することができました。

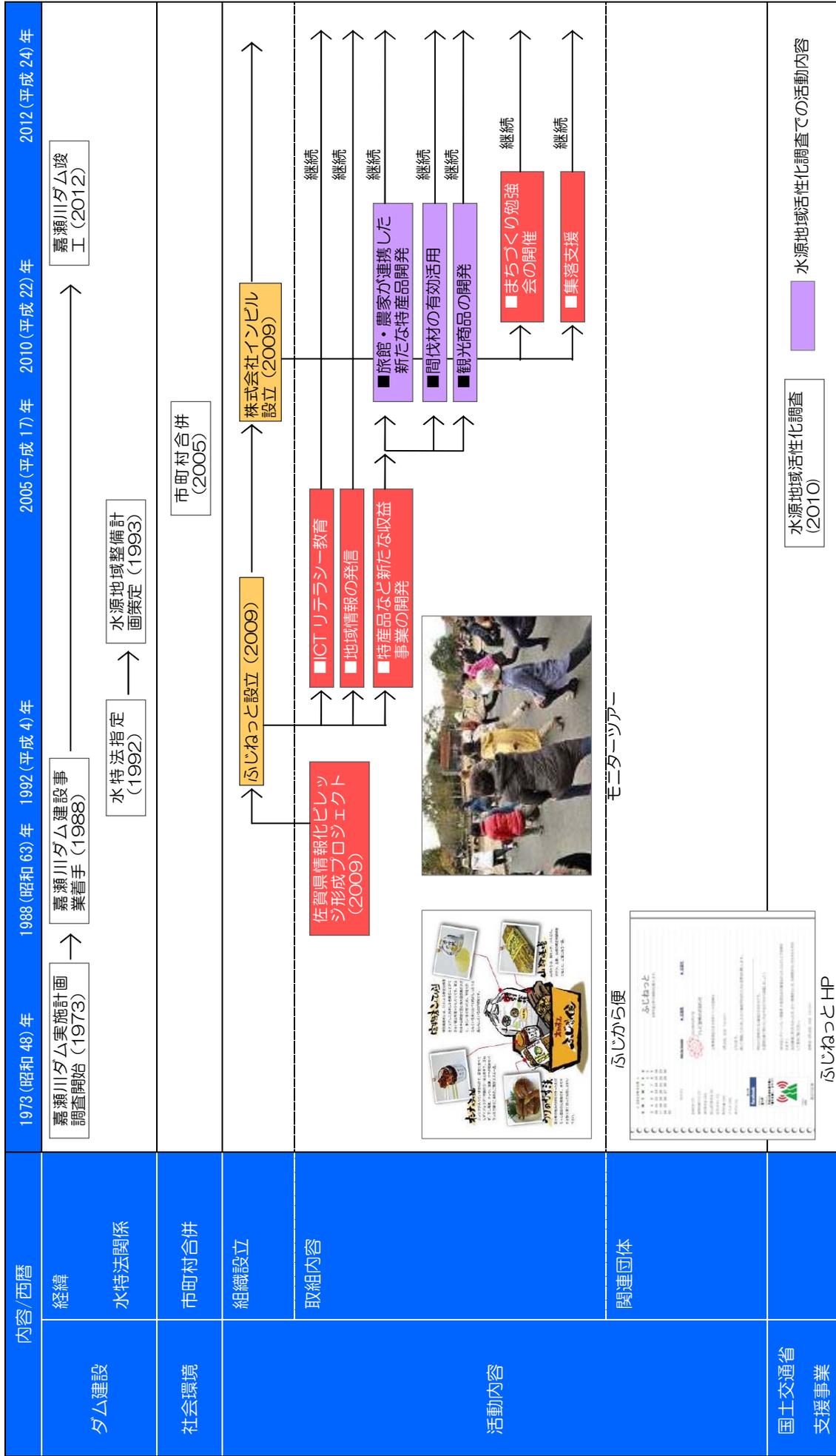


ふじから便



モニターツアーの様子

活動の流れ (嘉瀬川ダム)



## (4) 平取ダム（北海道平取町）

### ◆実施主体

平取ダム水源地域振興協議会

### ◆水源地域活性化調査時の活動内容

#### ①廃校利用を柱とした水源地域活性化

- ・廃校となった旧豊中小中学校の利用を検討するため、平取ダム水源地域振興協議会を立ち上げ、利用方法の検討、先進事例の視察を実施。
- ・教職員住宅を利用した、「住宅つき滞在型農園とよぬかの里」の拡充・販売促進。

#### ②豊糠地区の特産品開発、地域イメージキャラクターの検討、ホームページの開設と活用

- ・とよぬかブランドの発掘・販売。
- ・とよぬかブランドのキャラクターを一般公募し、キャラクター化を展開（ほろりん）。
- ・平取ダム水源地域振興協議会の情報発信手段として、ホームページを開設。

### ◆地域の関わり

平取ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「協議会」が中心となり、「アドバイザー」、「学生」、「地域住民」、「自治会」、「行政」、「都市住民」、「関連団体」の8主体が連携して実施しました。

各主体の役割分担

	指揮者・ リーダー	起案者・ 発案者	専門家・ 助言者	宣伝者	事務者	支援者・ 後援者	同好の士・ 同調者
協議会	●	●		●	●		
アドバイザー			△				
学生		△					△
地域住民						●	
自治会		●				●	
行政					●		
都市住民							●
関連団体							●

●水源地域活性化調査以降も継続  
△水源地域活性化調査以降は撤退  
○水源地域活性化調査以降に参画

### ◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で実施してきた活動（とよぬかの里の拡充、ブランドキャラクターのグッズ販売）を継続して実施するとともに、水源地域活性化調査での検討結果を踏まえ、とよぬか山荘を開設し、運営・管理を行っています。また、とよぬか山荘の運営では、近隣の山小屋と協力して、山荘の予約や情報窓口の一体化などに取り組むことで、利用客の増加につながっています。

さらに、「地域おこし協力隊事業」を活用し、人材育成や活動内容の充実を図っています。

#### ◆課題

とよぬかの里の利用者が増加しており、宿泊の需要に対しての供給量が不足しています。

現在の主な資金源は、幌尻岳の登山シーズンでの山荘利用料となっており、シーズン外や登山時の情報提供などでも資金を獲得できる仕組みを構築する必要があります。

水源地域活性化調査で鹿肉等を活用した特産品開発を実施しましたが、豊糠地区のオリジナルブランドの確立が困難な状況であるとともに、保健所等への許可申請が必要であるため、商品化に結びついていません。

#### ◆まとめ

平取ダム水源地域では、地域との関わりが強い「廃校の有効活用」に向け、町内会長を中心とした地域住民が主体となった協議会を立ち上げたことで、活動が実施しやすくなりました。

学生やアドバイザーなどの「外部の視点」を取り入れた「現地調査」を実施したことで、地元住民だけでは気がつかなかった地域の魅力を再発見することができ、イベントやワークショップなどの開催につながっていきました。

さらに、都市部での登山ブームに乗って、運営している宿泊施設の価値を向上させるとともに、他の施設との連携や窓口の一体化などを実施し、利便性の向上を目指しています。



とよぬか山荘

活動の流れ (平取ダム)

内容/西暦		1947 (昭和 22) 年	1977 (昭和 52) 年	1985 (昭和 59) 年	2008 (平成 20) 年	2009 (平成 21) 年	2010 (平成 22) 年	今後
ダム建設	経緯		平取ダム事業着手 (1977)					平取ダム竣工予定 (2016)
	水特法関係		水特法指定 (1985)	水源地域整備計画策定 (1986)	野菜生産共同栽培施設整備			
社会環境	小中学校の開校・閉校	豊糠小学校開校 (1947)	ダム建設のため学校移転 (1985)	豊糠(小)中学校閉校 (2008)	とよぬかの里の開業 (旧教職員住宅を利用した住宅つき滞在型農園 2009)	とよぬか山荘開業 (2010.7)		
	組織設立			水源地域対策検討プロジェクト設立※1 (2008.6)	平取ダム水源地域振興協議会設立会議※2 (2008.10)	平取ダム水源地域振興協議会 (2009)		平取ダム水源地域振興協議会 継続 (設立時: 28人、2012年: 35人) 継続
活動内容	取組内容							継続 ■とよぬかの里の実施 4戸/1年 1戸25万円 継続 ■とよぬか山荘の開業 (2010.7) 2012年: 1,200人利用 継続 ■特産品開発: 中止 ■イメージキャラクター: 販売物等を利用 ■協議会HP: 作成後未更新 上記の活動は観光協会等のHPでPR
	関連団体							継続 ■平取山岳会との連携 (2012) (幌尻岳登山の情報発信)
国土交通省 支援事業								水源地域活性化調査 (2009) 水源地域活性化調査での活動内容

※1: 平取町役場のメンバーで構成、※2: 豊糠地区周辺周辺の市民により構成

## (5) 築川ダム（岩手県盛岡市）

### ◆実施主体

NPO 法人もりおか中津川の会

### ◆水源地域活性化調査時の活動内容

#### ①炭づくり

- ・ダム湖への流木や河川管理で伐採した樹木の有効活用を図り、新たな特産（盛岡ブランド）につなげていくために、炭焼きを試行。
- ・炭焼き窯はダム上流部にある窯を使用（炭焼きの指導を受ける）。

#### ②炭染め和紙づくり

- ・中津川の河川敷に繁茂するツルヨシを活用した和紙づくりを実施（廃校内の施設を使用）。
- ・和紙づくりにあたっては、河川への排水に配慮し、化学薬品を使用しない手法を模索（灰を代替品として使用）。
- ・作成した和紙を活用した特産品（ポストカード、クラフト等）を試作。

### ◆地域の関わり

築川ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「活動団体」が中心となり、「行政」、「アドバイザー」、「地域住民」の4主体が連携して実施しました。

各主体の役割分担

	指揮者・リーダー	起案者・発案者	専門家・助言者	宣伝者	事務者	支援者・後援者	同好の士・同調者
活動団体	●	●		●	●		
行政		△				●	
アドバイザー			●				
地域住民			●				

●水源地域活性化調査以降も継続  
 △水源地域活性化調査以降は撤退  
 ○水源地域活性化調査以降に参画

### ◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で試行した『和紙づくり』を継続していましたが、平成23年に発生した『東日本大震災』の影響で活動の主軸が特産品開発から被災者支援に移っていきました。

しかし、水源地域活性化調査を通して得られた行政との関係を活用し、被災者支援と水源地域活性化活動が両立できる『農園の整備・運用』につながっています。

### ◆課題

和紙づくりに関する専門的な知識・情報が不足しています。特に、植物から繊維を取り出し、和紙の強度を向上させるためには、専用の薬品（水酸化ナトリウム）を使用することが一般的ですが、水質汚濁の恐れがあるため、薬品の代替品を見つけていく必要があります。

また、水源地域活性化活動に携わっているメンバーの多くが高齢者であり、マンパワーが不足して

いることに加え、東日本大震災以降、その活動の主軸を被災者支援に移しているため、特産品開発を実施することは困難となっている。

#### ◆まとめ

築川ダム水源地域では、地域との関わりが強い廃校を利用することで、「地域住民からの支援・協力」が受けやすかったこと、また、公共施設の利活用のために「行政機関との関係構築」が築きやすかったなどにより、順調に活動を推進していくことができました。

また、東日本大震災の発生によって当初の活動は停滞しましたが、行政からの声かけにより被災者支援を目的とした新組織の立ち上げにつながり、水源地域の活性化と被災者支援が同時に対応できる取組が継続的に実施されています。

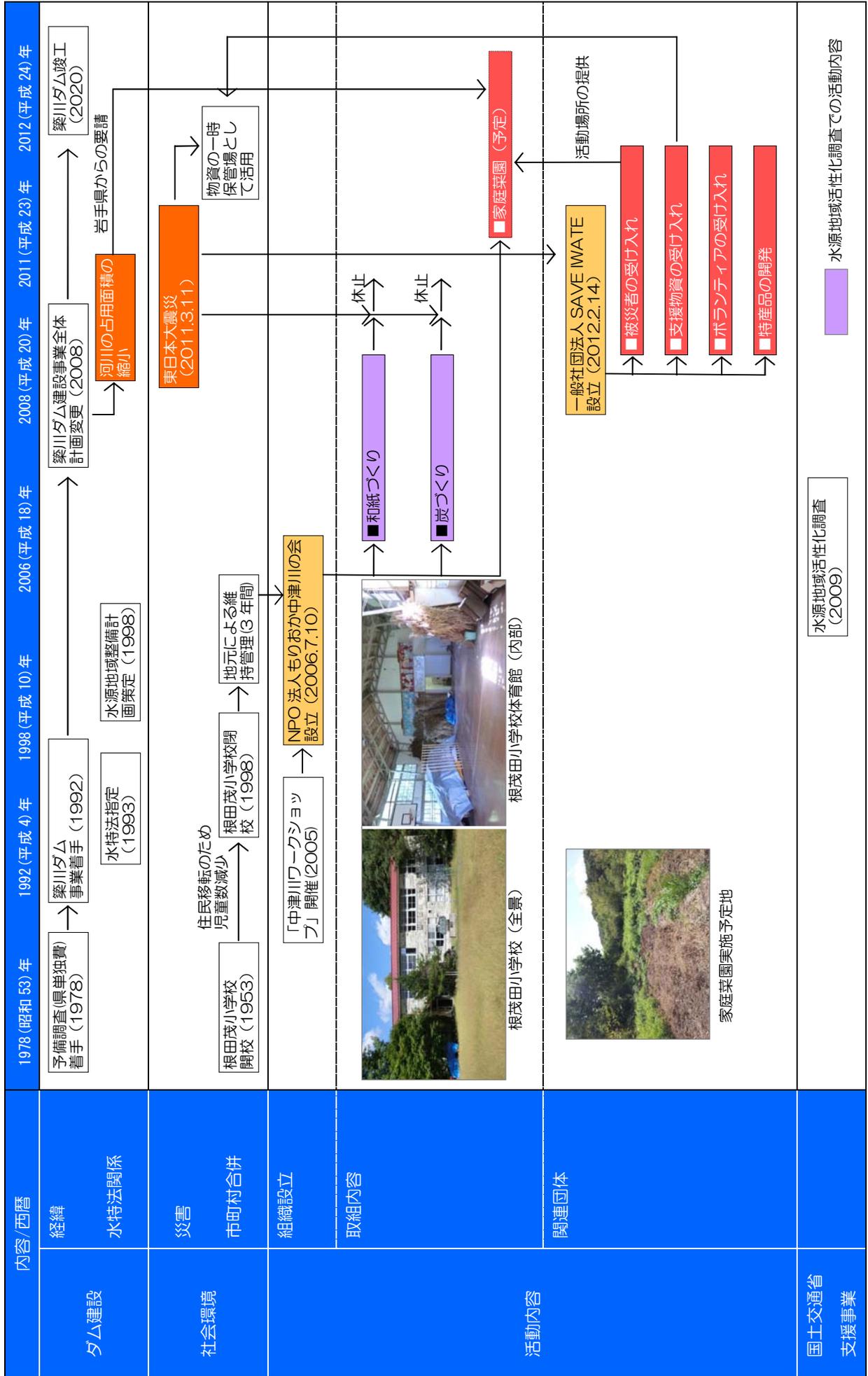


築川



旧根茂田小学校（全景）

活動の流れ (築川ダム)



## (6) 平瀬ダム（山口県岩国市）

### ◆実施主体

山口県岩国市（旧錦町）

### ◆水源地域活性化調査時の活動内容

#### ① 錦川スーパーフォーラムの開催

- ・水と水の文化の魅力を見つけ出し、さらに高めていくことによって、錦川固有の水文化を活かした地域活性化を目指す【アクション錦川】を発表。
- ・地元小学生との川の漂流物さがしや、講演、「アクション錦川に向けて」をテーマとしてパネルディスカッションを実施。

#### ② アクション錦川の推進

- ・錦川リバーツーリズム推進組織の設立や、錦川クリーンアップ大作戦の実施、水と水の文化のアーカイブ製作、棚田オーナー制度の推進方策を検討。

### ◆地域の関わり

平瀬ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「行政」が中心となり、「活動団体」、「錦川流域ネット交流会」の3主体が連携して実施しました。その後、「やましろ体験交流協議会」も参加し、4主体によって実施されています。

各主体の役割分担

	指揮者・リーダー	起案者・発案者	専門家・助言者	宣伝者	事務者	支援者・後援者	同好の士・同調者
行政	●	●		●	●		
活動団体							●
錦川流域ネット交流会	○	○		○	○	●	
やましろ体験交流協議会	○	○		○	○		

●水源地域活性化調査以降も継続  
 △水源地域活性化調査以降は撤退  
 ○水源地域活性化調査以降に参画

### ◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査を期に設立された『錦川流域ネット交流会』が中心となり、河川の一斉清掃や錦川生き物フォーラムが開催されています。また、『やましろ体験交流協議会』が中心となり、ホームページ（錦川清流物語）の開設・運営や、修学旅行生を含む体験ツアーが実施されています。今後は、民泊体験を含めた修学旅行や、企業研究などの体験ツアーの受入などを目指しています。

### ◆課題

平成20年度から『やましろ体験交流協議会』を中心にホームページなどで情報発信していますが、知名度が低いため、地域に情報が浸透していません。錦川や宇佐川をフィールドとして、晴天時に実施する体験プログラムは充実してきましたが、今後は、荒天時の体験プログラムを充実させていく必要があります。

#### ◆まとめ

平瀬ダム水源地域では、水源地域の現状を踏まえた「地域活性化策の検討」が発端となり、「地域住民の意識啓発」を行いながら「活動組織の立上げ」につながりました。活動組織が立ち上げられることにより、水源地域活性化の主体が明確となり、「特産品の開発」や「体験交流ツアーの試行」が実施しやすい環境が整備されました。

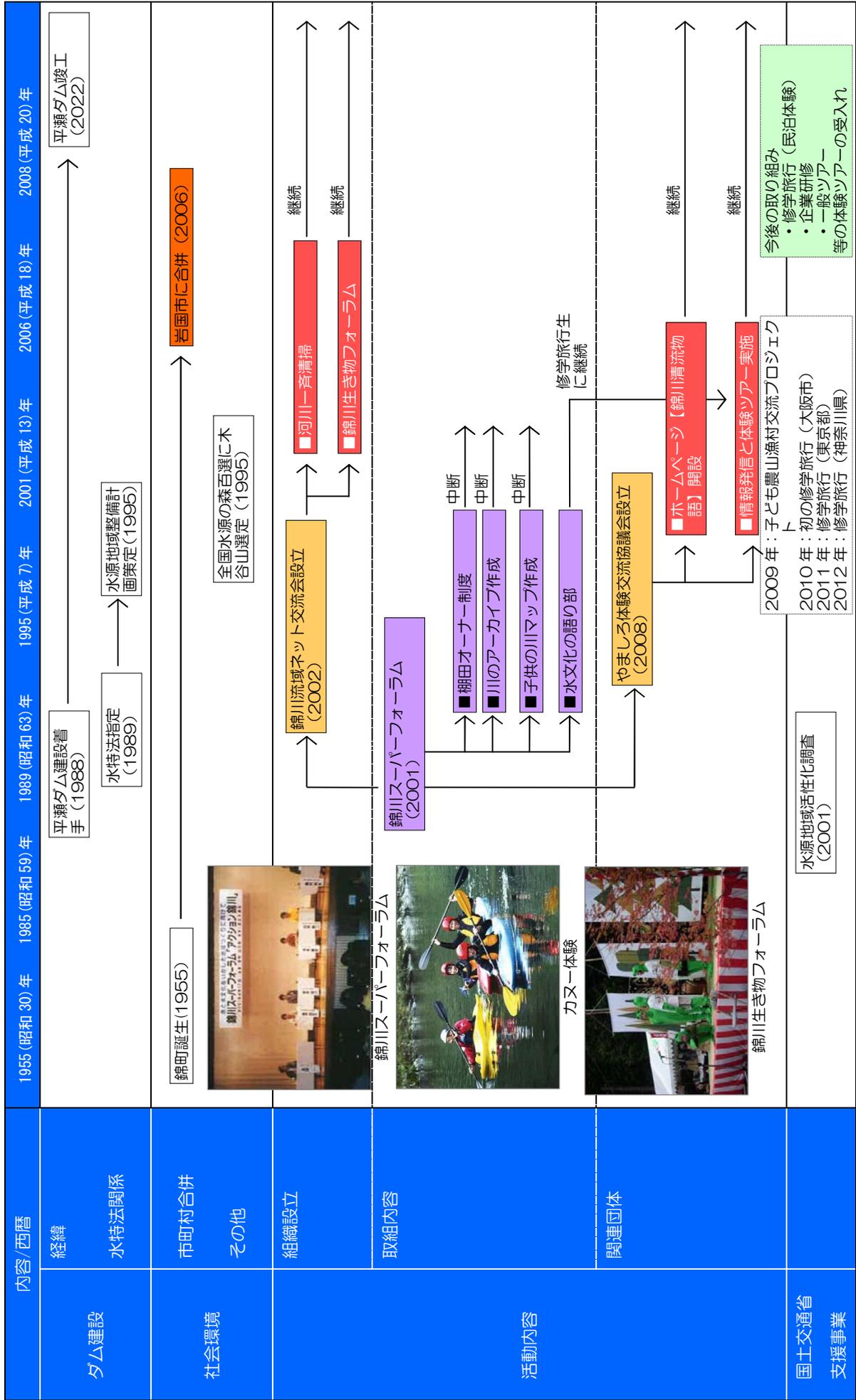


水生学習の場



民泊の受入施設

活動の流れ (平瀬ダム)



水源地域活性化調査での活動内容

## (7) 日吉ダム（京都府南丹市）

### ◆実施主体

京都府南丹市（旧日吉町）、独立行政法人水資源機構日吉ダム管理所

### ◆水源地域活性化調査時の活動内容

#### ①星と光のページの開催

- ・冬の日吉ダムを背景に、静寂とにぎわいのコントラストを演出するイベントを実施。
- ・「地域に開かれたダム」整備計画で整備された、ひよし温泉「スプリングスひよし」のオープンイベントを実施し、観光・健康増進施設のスプリングスひよしを発信。

#### ②明治鍼灸大学（現明治国際医療大学）とスプリングスひよしの連携による健康増進プログラムの開発

- ・健康という観点から、地域資源を活用した健康増進プログラムを作成し、それらの案に対し「スプリングスひよし」利用者から意向を把握。

#### ③ピオトープに関する環境学習会

- ・地元の小学生を対象とした、環境学習会を実施。原石山跡地のピオトープ整備予定地をフィールドとし、野外学習会、ノコギリによる流木の切断などを実施。将来のピオトープ整備に対する小学生のアイディア・意見を聴取。

#### ④水質と環境に関する学習会

- ・日吉ダム下流の亀岡市の小学生を対象に、水源地域を理解してもらうことを目的とした水質と環境に関する学習会を実施。パックテストによるダム貯水池等の水質観察、測定結果のまとめを講評。

### ◆地域の関わり

日吉ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「行政」が中心となり、「ダム管理者」、「コンサルタント」、「大学」、「地域住民」、「都市住民」の6主体が連携して実施しました。

各主体の役割分担

	指揮者・リーダー	起案者・発案者	専門家・助言者	宣伝者	事務者	支援者・後援者	同好の士・同調者
行政	●	●		●	●		
ダム管理者	●	●		●	●		
コンサルタント		△			△		
大学		●	●				
地域住民						●	
都市住民						●	
関連施設						○	
小学生							○

●水源地域活性化調査以降も継続  
△水源地域活性化調査以降は撤退  
○水源地域活性化調査以降に参画

#### ◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査時に実施した『星と光のページェント』を引き継ぐ形で『水の杜フェスタ』を開催し、スプリングスひよしを拠点としたダム周辺地域の活性化を図っています。また、地元大学と連携し、健康増進プログラムに加え、地域の食材を利用した薬膳料理を開発し、スプリングスひよしで提供しています。

また、将来的な一般公開を視野に入れた原石山のビオトープの整備や、地元小学生を対象とした環境学習会などを実施しています。

#### ◆課題

地域にまちづくり関係のNPO 団体がなく、関心のある住民が多くありません。そのため、イベント時にボランティアを募集しても集まりが悪く、行政の職員で対応しています。

市町村合併等の影響もあり、活動を継続していくための資金の確保が困難となっています。

#### ◆まとめ

日吉ダム水源地域では、ダム管理者が主体となって策定した『「地域に開かれたダム」整備計画』や「水源地域ビジョン」の推進などが発端となり、「施設の整備」や「大学との連携」による「健康増進プログラムの作成」につながりました。

特に、地元大学と連携することで、大学の専門知識を活用しながら、ターゲットを絞ったプログラムメニューや、地域の食材を利用した薬膳料理を開発することが可能となりました。

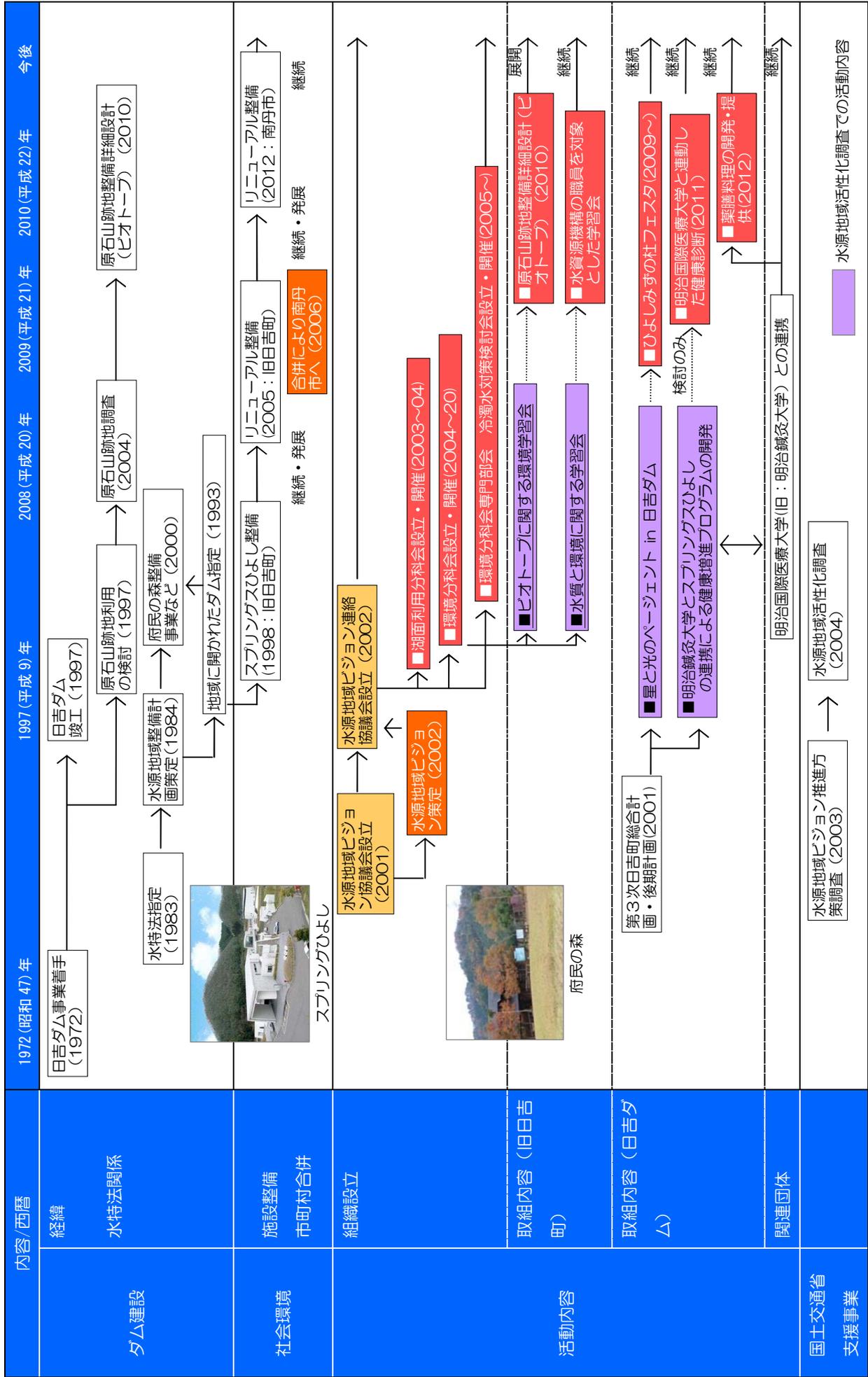


日吉ダムビジターセンター



府民の森

活動の流れ (日吉ダム)



## (8) 小石原川ダム（福岡県東峰村）

### ◆実施主体

福岡県東峰村（その後、東峰村ツーリズム協会）

### ◆水源地域活性化調査時の活動内容

#### ①水源地域活性化プロジェクト委員会の運営

- ・水源地域活性化の推進母体として「水源地域活性化プロジェクト委員会」を設立し、東峰村の魅力・課題の把握と具体的な活動について協議・実践。
- ・メンバーは事務局 2 名と、地域内の若手 10 名（男性 5 名、女性 5 名）。

#### ②東峰村の魅力調査

- ・活動の方向性を探るため、東峰村の強み（資源）、弱み（課題）をテーマに東峰村の魅力を活かすための方策や課題への対応を協議。

#### ③モニターツアーの実施

- ・東峰村の魅力を都市住民に知ってもらうためのモニターツアー「東峰見聞録：東峰村でおいしい時間・秋」を企画・実施（ツアー参加者 18 名）。

#### ④ホームページ作成

- ・東峰村の観光情報を発信するホームページの立ち上げを目的に、委員有志の研修受講、専門業者の支援によりホームページを立ち上げ。

### ◆地域の関わり

小石原川ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「行政」が中心となり、「小石原焼陶器協同組合」、「地元企業」、「都市住民」の 4 主体が連携して実施しました。その後、行政が実施していた内容を「東峰村ツーリズム協会」が引き継ぎ、活動を継続しています。

各主体の役割分担

	指揮者・リーダー	起案者・発案者	専門家・助言者	宣伝者	事務者	支援者・後援者	同好の士・同調者
行政	△	△		△	△		
東峰村ツーリズム協会	○	○		○	○		
小石原焼陶器協同組合						●	
地元企業						●	
都市住民							●

●水源地域活性化調査以降も継続  
 △水源地域活性化調査以降は撤退  
 ○水源地域活性化調査以降に参画

### ◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で実施した内容を踏まえ、活動主体として『東峰村ツーリズム協会』が設立されました。

東峰村ツーリズム協会では、モニターツアーの結果を踏まえた『観光ガイド事業』の実施や、観光情報サイト『東峰見聞録』の運営などを継続しています。特に、観光情報サイト『東峰見聞録』では、

Youtube を活用した小石原焼のコンテストを開催するなど、新技術を取り入れた取組を実施しています。

また、結婚活動支援事業や、環境保全活動（行者杉保全活動協力）など、新たな取組も推進しています。

#### ◆課題

情報収集のための取材スタッフが不足しています。また、観光ガイドツアーを実施する際の外国人観光客の受入の対応を検討していく必要があります。

また、観光ガイドの実施にあたり、十分な知識と技術を持った観光案内人を育成する必要があります。

#### ◆まとめ

小石原川ダム水源地域では、小石原焼をはじめとした「地域資源を活かした地域づくり」が発端となり、「地域住民（若手）」との協働や「担い手の育成」によって、「体験プログラムの開発」につながりました。

また、水源地域活性化活動を主体的に実施する活動組織の立ち上げが、積極的な情報提供や案内人の育成につながりました。活動組織の立ち上げにあたっては、地域活性化に対して熱い思いがあり、行動力がある若手を中心とすることで、これまで地域で実施されてこなかった活動に挑戦しやすくなる環境が構築されました。

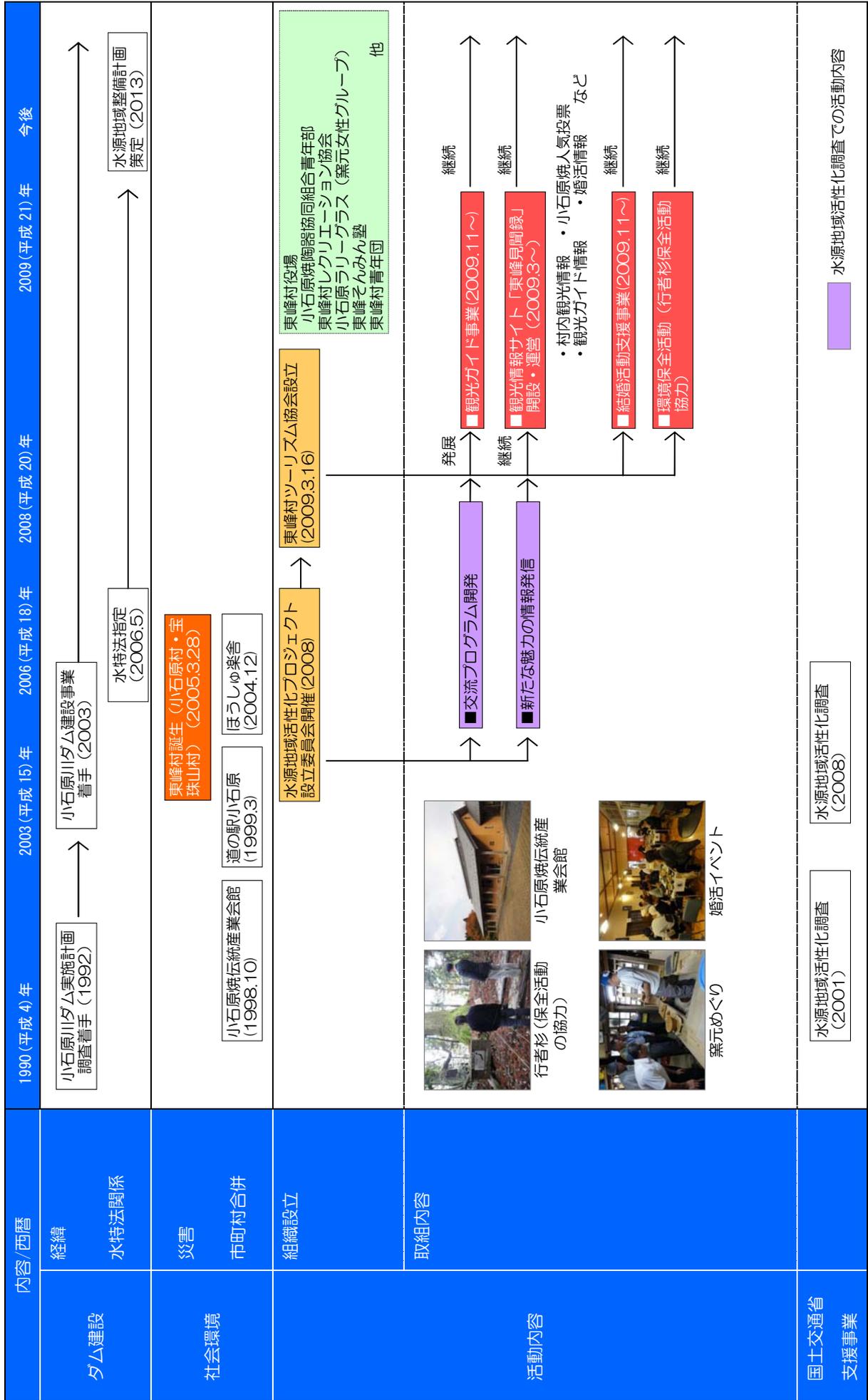


小石原焼伝統産業会館



小石原焼窯元

活動の流れ (小石原川ダム)



## (9) 夕張シューパロダム（北海道夕張市）

### ◆実施主体

NPO 法人ゆうばりファンタ

### ◆水源地域活性化調査時の活動内容

#### ①名画座キャラバンの実施

- ・都市部の映画館に行けない住民を対象に、名作映画の上映とあわせて、地域の相互理解を目的として過去の夕張の映像を上映。

#### ②夕張市の記録映像の収集及び編集

- ・夕張市内で撮影された映画や映像資料を収集。
- ・収集した映像資料を「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」にあわせて上映。

#### ③トークセッションの開催

- ・過去、現在の夕張市の姿を映像で確認した後に、これから進むべき方向性についてのトークセッションを開催。

### ◆地域の関わり

夕張シューパロダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「NPO 法人」が中心となり、「地元住民」、「大学」の3主体が連携して実施しました。その後、「行政」も参加し、4主体によって実施されています。

各主体の役割分担

	指揮者・ リーダー	起案者・ 発案者	専門家・ 助言者	宣伝者	事務者	支援者・ 後援者	同好の士・ 同調者
NPO 法人	●	●		●	●		
地元住民						△	
大学			△				
行政						○	

●水源地域活性化調査以降も継続  
△水源地域活性化調査以降は撤退  
○水源地域活性化調査以降に参画

### ◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で構築した地域住民との関係を活かし、地域で実施されている各種イベントに参加しています。また、行政との関係を再構築することで、対外的な信頼度の向上や、積極的な情報交換の実施、行政とNPO 法人が連携した地域活性化活動の実施（観光客の誘致など）につながっています。

### ◆課題

水源地域活性化活動の継続的な実施に活用できる助成金の情報などを入手することが困難になっています。

水源地域活性化調査で実施した映画の上映会などを継続して実施していきたいが、プロジェクター

などの資機材がないため、活動を継続していくことが困難となっています。

また、地域住民などが気軽に集まることができる施設を確保する必要があります。

#### ◆まとめ

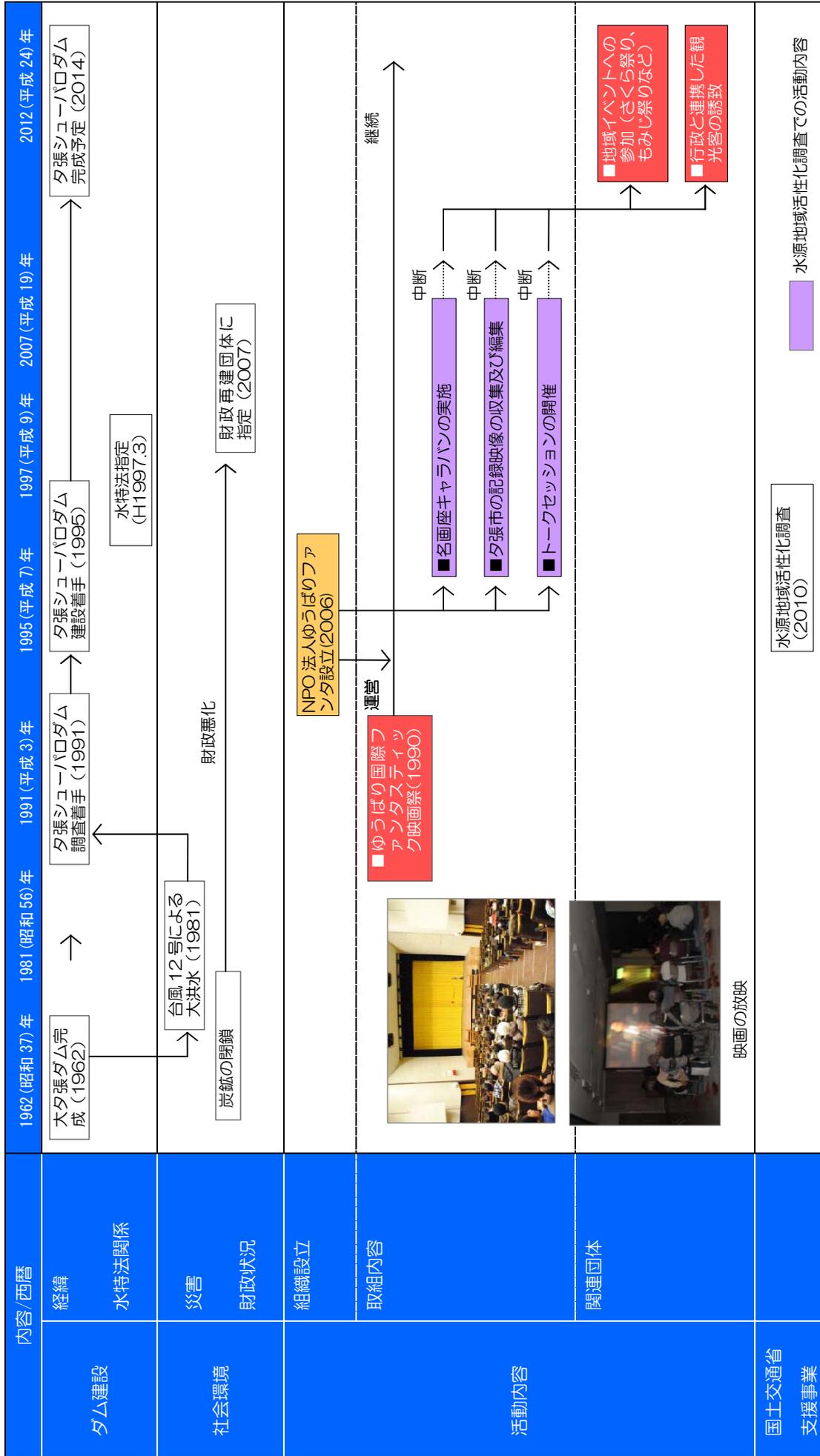
夕張シューパロダム水源地域では、「夕張市の財政破綻」によって民間主導の夕張映画祭の「実行組織の立上げ」が発端となり、「専門家」や「地域住民」の支援を受けて、「名画座キャラバンの実施」や「記録映像の収集、編集」につながりました。

また、水源地域活性化調査の活動を通して、実行組織の認知度や活動への理解が広がることにより、行政機関との関連が強化、連携して活動を実施する関係が構築されました。行政と連携することにより、実行組織の信頼が高まり、「地域外の団体との関係構築」や「観光客の誘致」にもつながりました。



映画の放映の様子

活動の流れ (タ張シューパロダム)



## (10) 水源地域活性化調査の活動内容

「水源地域活性化調査」において、各地で実施された活動を分類すると、①特産品開発、②観光・交流、③その他となります。

このうち、特産品開発や観光・交流は、国土交通省が実施した『水源地域（水の里）の共同プロモーションに関する検討会専門委員会』において、「水源地域の保全と自立のためには、住民の生活の糧になる地域の製品の販売促進や観光客の誘致が必要」と位置づけられており、水源地域の活性化における有効性が認められています。

水源地域活性化活動を推進していくにあたっては、

- ◆「特産品開発」と「観光・交流」に共通しているポイント（例えば、地域が一体となる組織の立上げ、アドバイザーの確保、ターゲットの設定など）
- ◆「特産品開発」に必要なポイント（例えば、加工施設の確保、デザインの設定など）
- ◆「観光・交流」に必要なポイント（例えば、地域ならではの活動フィールドの確保、プログラムの開発など）

があり、適切なタイミングに効果的な取組を実施していくことが重要になります。【詳細は、「第3章水源地域活性化活動の実施手順の提案」をご覧ください。】

水源地域活性化調査の実施内容の分類

	特産品開発	観光・交流	その他
川治ダム	○食のメニュー開発	○体験プログラムの充実・提供	◎施設の活用
志津見ダム	○農産物の販売 ○特産品の開発	○体験プログラムの開発・提供	
嘉瀬川ダム	○特産品の開発	○体験プログラムの開発・提供	
平取ダム	△特産品の開発	○施設の有効活用	
梁川ダム	△特産品の開発	◎施設の有効活用	
平瀬ダム		◎体験プログラムの開発・提供	○アクションプランの開発
日吉ダム	◎薬膳料理の開発・提供	○健康増進プログラムの開発・提供 ○イベントの開催	
小石原川ダム		○体験プログラムの開発・提供	
夕張シューパロダム		△イベントの開催	

水源地域活性化調査では、各地域において組織の立ち上げや、地域資源の発見、情報発信、新規人材の確保・育成、計画策定など様々な取組が実施されてきました。また、各地域で実施された内容を整理すると、ほぼ全ての地域で実施されている内容や、一部の地域でのみ実施された内容などに分類することができました。実施した内容のうち、半数以上の水源地域で実施されている内容は、以下の8つでした。

- ① 地域が一体となる組織の立上げ
- ② 地域住民が懇談できる場の確保
- ③ 人と人、組織と組織の関係の構築・強化
- ④ 足元に眠っている宝の原石（地域資源）の発見
- ⑤ どこで誰に売るのかを明確にするためのターゲットの設定
- ⑥ 商品の可能性を探るためのマーケティングの実施
- ⑦ 魅力ある商品の提供（商品化）
- ⑧ 商品の魅力情報の発信

これら8つのポイントは、それぞれ独立して存在しているわけではなく、それぞれが関連しあっています。

上記で示したポイントは、多くの地域で実施されている内容であり、8つのポイントのみを実施すれば水源地域が活性化するものではありません。

そのため、各地域の現状を踏まえて不足しているポイントを効果的に実施していくとともに、各地域ならではの課題を解決するためのポイントを見つけていく必要があります。【詳細は、「第3章水源地域活性化活動の実施手順の提案」をご覧ください。】

水源地域活性化活動を推進していくためのポイント

	組織の立上げ	場の確保	関係構築・強化	地域資源の発見	ターゲットの設定	マーケティングの実施	商品化	情報発信	新規人材の確保・育成	計画策定	施設整備
川治ダム	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
志津見ダム			○	○	○	○	○	○			○
嘉瀬川ダム	○	○	○	○	○	○	○	○			
平取ダム	○	○	○	○	○	○		○			
梁川ダム	○	○	○			○		○	○		
平瀬ダム	○	○				○				○	
日吉ダム			○				○			○	○
小石原川ダム	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
夕張スーパーダム	○	○	○	○							

■水源地域活性化活動を推進していく際の課題

水源地域活性化活動を推進していく際の主な課題としては、①活動を継続していくための資金の確保、②活動内容を向上させるための情報収集、③関係者をつなぐコーディネーターなどの人材確保、④関連団体や住民との関係の構築、⑤活動場所や地域住民が集まることができる場の確保、⑥効果的な情報発信手法の確立、⑦活動や情報の透明性の確保の7つが挙げられます。水源地域活性化調査の推進に共通して見られるこのような課題を解決していくことが、継続的な活動の実施につながります。

水源地域活性化活動の課題

阻害要因	事例
①資金の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益事業を実施していないため、行政等の補助金に頼らざるを得ない状況になっています（川治ダム）。</li> <li>・幌尻岳の登山シーズンでの山荘利用料となっており、シーズン外や登山時の情報提供などでも資金を獲得できる仕組みを構築する必要があります（平取ダム）。</li> </ul>
②情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政からの情報提供がないため、活動を実施するための情報を自分たちで収集していく必要があります（川治ダム）。</li> <li>・住民だけで助成金の情報を獲得し、申請書等を記載することは困難となっています（志津見ダム）。 →行政に相談することで、『産業振興』の一環として、活動に関連する助成金情報の提供や、申請へのアドバイスなどを得ています（志津見ダム）。</li> <li>・和紙づくりに関する専門的な知識・情報が不足しています（築川ダム）。 →活動団体だけで解決できない課題等を学識経験者に相談し、問題を解決するためのアドバイスを受けています（築川ダム）。</li> </ul>
③人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水源地域活性化活動を推進していくためには、関係者をつなぐコーディネーターが必要となっています（志津見ダム）。</li> <li>・水源地域活性化活動に携わっているメンバーの多くが高齢者であり、マンパワーが不足しています（築川ダム）。 →活動を通してメンバーを獲得しています。また、若いメンバーがやりたいことを積極的にサポートしています（築川ダム）。</li> <li>・情報収集のための取材スタッフが不足しています（小石原川ダム）。</li> </ul>
④関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で単発の取組を実施するだけでは、地域住民や地域の各種団体との関係を構築することができませんでした（嘉瀬川ダム）。 →継続して地域のイベント等に参加することで、地域での信頼を獲得し、地域団体等と連携した活動が実施できています（嘉瀬川ダム）。</li> </ul>
⑤場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とよぬかの里の利用者が増加しており、需要に対しての供給量が不足しています（平取ダム）。</li> <li>・地域住民などが気軽に集まることができる施設を確保する必要があります（夕張シューパロダム）。</li> </ul>
⑥情報発信手法の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページなどで情報発信していますが、知名度が低いため、地域に情報が浸透していません（平瀬ダム）。</li> </ul>
⑦活動や情報の透明性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化活動は、地域住民が一同となって推進していく必要があります。しかし、全国には一部の人が、活動や会計の情報を独占し、情報の透明性が確保されていない事例も耳にします。意思決定の透明性や様々な情報の共有が不十分であるため、活動に対する不信感が広がり、活動が中断してしまう恐れがあります。</li> </ul>

### 3. 水源地域活性化活動の実施手順の提案

前章で示した 8 つのポイントと 3 つの活動分類を踏まえ、水源地域活性化活動を実施していく手順を提案します。

今回紹介する手順は、これから水源地域活性化活動を実施する場合の手順のモデルです。そのため、各地域の現状を踏まえて実施していく必要があります。

【水源地域活性化活動の実施フロー】



次ページからは、「水源地域活性化調査」やその後の活動で実施された具体的なポイントを紹介します。

## （１）組織の立上げ【地域が一体となる組織を立ち上げる】

地域が一体となった組織を立ち上げることが、水源地域活性化活動の成否の鍵になります。地域の現状や課題などを共有することができる関係者が集まった組織を立ち上げましょう。

【共通】 目的や取組の絞込みと共有が、ぶれない組織をつくる。

- 水源地域を活性化するためには、地域が主体的に活動していく組織が必要になります。組織の立上げ時には、行政機関や関連団体を巻き込み、地域が一体となって活動できる場を醸成していきます。
- 組織の立ち上げにあたっては、まず、課題や目的を明確化し、関係者間で共有することが必要です。
- 活動内容に応じて、組織に関係者を巻き込んでいきましょう。
- また、継続して活動を実施していくためには、活動の中心となる『キーマン』の存在が不可欠です。そのため、地域活性化に熱意があり、行動力がある、地域からの信頼が厚い方を発掘しましょう。
- 地域が一体となって円滑に活性化の取組を進めるには、活動や情報などの透明性の確保が重要です。情報や会計の透明化を確保しましょう。

### 《事例》

- 既存組織をもとに、地域活性化の取組を実施する組織を設立しました（川治ダム）。
- 行政や地域住民、関係者が参画した協議会を設立しました（平取ダム）。
- 活動内容や目的を絞った活動組織を設立することで、スムーズな活動につながりました（梁川ダム）。
- 策定した活性化計画を推進していくための団体を地元組織や住民が中心となって設立しました（平瀬ダム）。
- 地域の活性化を推進していくための組織を若手が中心となって設立しました（小石原川ダム）。
- 活動を継続していくために、『担い手育成研修会』に参加し、ノウハウなどを獲得しました（小石原川ダム）。

## （２）場の確保【懇談できる場を確保する】

水源地域の活性化に向けた取組を実施するためには、活動の主役となる地域住民との関係を醸成するための施設（集会所など）が確保されているかを確認し、必要に応じて公共施設などを確保します。

【共通】 地域住民が集える施設を確保する。

- 地域活性化活動は、地域住民がコミュニケーションをとりながら実施していくことが望めます。そのため、日頃から地域住民が集うことができる施設（集会所、事務所など）の確保が重要になります。
- 日頃から地域住民が集える施設がない場合は、自治体等に相談してみましょう。
- 必要以上に大きな施設等は、管理費がその後の負担になりますので、気をつけましょう。

### 《事例》

- 活動組織の株式会社化を契機に、行政の庁舎内にあった事務所を地域内の遊休施設に移動しました。地域住民が集まりやすい場を確保することで、地域住民との距離が縮まり、活動の認知が広がりました（嘉瀬川ダム）。

### 【3】関係構築・強化【人のつながりは地域の宝になる】

主体となる取組団体だけで、水源地域の活性化を実施することは困難です。そのため、地域住民や関連行政、地域外の活動団体や専門家、学生など、様々な主体との関係を構築・強化することで水源地域の活性化に向けた取組を実施していきます。

#### 【共通】外部の知識・技術のアドバイザーを確保する。

- ・地域住民や活動団体だけでは、水源地域を活性化していくことは困難です。そのため、地域外で活動している専門家を確保し、適宜、商品開発のためのアドバイスを求めていくことが必要です。

##### 《事例》

- ・外部の専門家を講師として招き、地域づくりをはじめとして地域住民向けの勉強会を開催しています（嘉瀬川ダム）。

#### 【共通】行政が組織と組織の橋渡し役となる。

- ・組織間での利害関係などにより、円滑な活動の実施が困難になることがあります。
- ・また、行政が主導することにより、地域の主体性の消失や担当者間の温度差の発生などが、活動に影響を与えることがあります。
- ・そこで、活動団体から信頼されている行政が組織と組織の橋渡し役になり、地域の中をつなげていくことで、各組織が連携するとともに、主体的に取組を実施していくことができます。

##### 《事例》

- ・廃校の有効活用策を検討するために、行政が地域に声かけを行った結果、地域住民が主体となった協議会が設立されました（平取ダム）。
- ・行政が、活動団体と関連団体、地域住民とのコーディネート役を担うことで、スムーズな活動の実施につながりました（嘉瀬川ダム）。

#### 【特産品開発】先進的な取組を見せることで行政からの信頼を獲得する。

- ・地域の課題を解決するための先進的な取組を地域と連携して実施していくことが、行政からの信頼の獲得につながります。
- ・行政からの信頼を得ることにより、活動の継続への支援や、他の特産品の開発にもつながっていきます。

##### 《事例》

- ・行政機関と連携した活動を実施することで、河川の占用面積の縮小に伴い発生した土地を活用した『農園の整備・運用』につながりました（梁川ダム）。

【観光・交流】複数の者の役割連携の関係を構築する。

- 地域住民や活動団体、地域外の活動団体、専門家、教育機関などと連携し、それぞれの主体の役割を明確にすることが、取組の推進につながります。

《事例》

- 学生サークル、地域住民、アドバイザー、行政それぞれが実施できる内容を話し合い、各主体が連携して活動を推進しました（志津見ダム）。
- 活動団体が計画したイベントなどを地元組織と役割分担を行い、実施しています（嘉瀬川ダム）。
- 地域活性化に関するフォーラムの開催を通して、地域が目指すべき姿を共有することができ、個々で活動している団体のネットワーク化につながりました（平瀬ダム）。

【観光・交流】行政と連携することで、信頼を向上させ、ノウハウ・人脈を活用する。

- 行政と連携して取組を実施することで、対外的な信頼が向上し、取組が推進しやすくなります。
- また、行政が有するノウハウや人脈などを活用することで、民間だけではできない取組を実施することができます。

《事例》

- 財政破綻に伴い民間が中心となって活動を推進してきたが、水源地域活性化調査を通して行政と住民の関係を再構築した事で、その後の生活や地域の活性化に向けた取組につながりました。また、行政と連携したことで、対外的な信頼も確保でき、取組の拡大につながりました（夕張シューパロダム）。

#### （４）地域資源の発見【宝の原石は足元に眠っている】

水源地域を活性化するために、地域住民だけでなく専門家や地域外の団体、学生なども参加しながら、特産品や体験プログラムに活用可能な地域資源がないか現地調査などを通して発見します。また、水源地域の活性化に向けた取組を実施するための施設（加工場や宿泊施設、交流施設など）も探します。

##### 【共通】外部の視点で資源を発見する。

- ・地域の活性化には、既存の価値観やしがらみに捉われない「ワカモノ・ヨソモノ・バカモノ」が必要とされています。
- ・地域内外の学生や団体などと連携しながら、外部の視点で地域の資源を発見していきます。

##### 《事例》

- ・地域の活かすべき資源を学生や専門家などと確認しました（平取ダム）。
- ・学生サークルや専門家とともに現地調査を行い、地域で活用されていないが価値のある資源（例：規格外の農産物）などの魅力を確認しました（志津見ダム）。

##### 【共通】実施内容に応じた適切な施設を確保する。

- ・活動を継続していくためには、活動の拠点となる施設を確保する必要があります。
- ・施設の確保にあたっては、実施当初から大きな施設の確保、建設するのではなく、活動内容や参加者数を勘案しながら、身の丈にあった施設とする必要があります。

##### 《事例》

- ・廃校を活用することで、地域との関係を強化することができました（梁川ダム）。

##### 【特産品開発】地域ならではの素材を発見する。

- ・特産品の材料となる素材や、安心、安全で魅力的な農産物等を発見します。
- ・地元で生産されている高品質な農産物や地域ならではの食べ方を現地調査や地域のお年寄りへの聞き取り調査などで発見します。
- ・地域で加工できる農産物等を発見します。

##### 《事例》

- ・学生サークルや専門家とともに現地調査を行い、地域で活用されていないが価値のある資源（例：規格外の農産物）などの魅力を確認しました（志津見ダム）。
- ・現地調査や地域住民等へのヒアリングなどを実施し、地域で生産されている高品質な農産物や、その食べ方などを発掘しました（嘉瀬川ダム）。
- ・現地調査を行い、特産品の材料となる地域ならではの食材を発掘しました（川治ダム）。

##### 【特産品開発】加工施設・加工機材を確保する。

- ・特産品を開発するためには、商品の試作や生産を行う加工施設を確保する必要があります。
- ・加工施設は、生産する特産品にあわせた許可を得る必要があります、関連法令に合致した施設を確保する必要があります。

《事例》

- ・事務所内にある調理場を保健所からの許可を受けた加工施設とし、加工品の生産を実施しています（嘉瀬川ダム）。
- ・行政と連携し、特産品の生産を拡大するための加工施設や加工機材を導入します（志津見ダム）。

【観光・交流】水源地域ならではの魅力・フィールドを発見する。

- ・水源地域ならではの自然環境や自然を活用してできる体験素材・プログラムを発見します。
- ・都市でニーズがあり、水源地域で実施可能な資源を発見します。
- ・都市や他の水源地域では体験できない自然環境やプログラムを発見します。
- ・消費者のニーズに合致した体験プログラムを実施していくためには、その地域ならではの自然環境などを活用できる活動フィールドを確保する必要があります。
- ・活動フィールドは、活用するだけでなく、継続的に使用するためにも保全活動を同時に実施していく必要があります。

《事例》

- ・大学生と連携して地域資源を発掘することで、大学生が魅力を感じる資源（すずらん群生地、農地、牧場など）を確認し、それらを活かしたイベントなどを開催しました（平取ダム）。
- ・都市住民を対象とした体験ツアーに活かせる地域資源を発掘しました（小石原川ダム）。
- ・ノルディックウォーキングのコースとしてふさわしいルートや、カヌー・カヤックが体験できるフィールドを発掘しました（川治ダム）。
- ・都市部でブームとなっている『登山』と連携した施設運営を実施しています（平取ダム）。
- ・地元の大学と連携し、健康をテーマとした健康増進プログラムや薬膳料理などの提供を実施しています（日吉ダム）。
- ・地域の記録映像を通して、地域の魅力や歴史資源を確認しました（夕張シューパロダム）。

【観光・交流】外部の眼差しで地元では気がつかない魅力を発見する。

- ・地域外の専門家や活動団体などと連携して、地元では見慣れた自然環境や体験などでも、地域外の住民にとっては新鮮な魅力となる資源を発見します。

《事例》

- ・大学生と連携して地域資源を発掘することで、大学生が魅力を感じる資源を確認し、それらを活かしたイベントなどを開催しました（平取ダム）。
- ・学生サークルとアドバイザーが現地調査を行い、都市住民が興味を持つ地域資源を発掘しました（志津見ダム）。

## （５）ターゲットの設定【どこで誰に売るのがかを明確にする】

商品をどこで、誰に売るのがにより、商品のデザインや量、内容、価格などが変わってきます。地域で提供できる商品に合致したターゲットを設定します。

### 【共通】都市部のニーズを把握し、ターゲットを絞る。

- 地域で提供できる商品と、都市部でニーズがあるものを比較し、ターゲット（商品の販売先）を決定します。
- また、想定したターゲットのボリュームや潜在的なニーズが十分であることを検討します。

#### 《事例》

- 都市部の登山ブームに沿った宿泊施設の運営を実施することで、継続的な運営につながっています（平取ダム）。

### 【特産品開発】販売先に応じ、商品の規格を変更する。

- 同じ内容の商品を販売するにあたって、地域の道の駅やスーパーで販売する場合と、都市部の大手スーパーでの販売、空港や駅での販売では、商品のデザイン（パッケージ）や内容量、価格などが変わるとともに、購入する層も異なっています。
- 地域が製造できる商品の量や質に応じて、想定する販売先を設定する必要があります。

#### 《事例》

- 地域のスーパーや道の駅などを調査し、地域で販売されている商品の特徴を整理し、特産品の内容や価格などを設定しました（嘉瀬川ダム）。

### 【観光・交流】ターゲットに応じ、体験プログラムの内容を変更する。

- 同じ種類の体験プログラムであっても、参加者の属性（年齢、性別など）や、経験の有無などによって、提供するプログラムの内容は変わってきます。そのため、地域で実施することができる内容を勘案し、ターゲットを想定する必要があります。

#### 《事例》

- ターゲットの興味、関心に沿った体験プログラムを開発し、個別のニーズに対応できる体制を構築しています（小石原川ダム）。
- 社会人、修学旅行生など、複数のターゲットに応じて体験プログラムの内容を変更しています（平瀬ダム）。

## (6) マーケティングの実施【商品の可能性を探る】

提供する商品が、ターゲットする層のニーズに合致するかを確認するために、産直市への出展やモニターツアーの実施、ヒアリングなどを通してマーケティングと商品の改良を行います。

### 【特産品開発】 目利きから商品の可能性を探る。

- ・実際に商品の販売に携わっている目利き（専門家）に試作品などを確認してもらい、商品化に向けた可能性や改良すべきポイントなどのアドバイスをもらいます。

#### 《事例》

- ・都市部の住民のニーズに合致すると思われる資源が本当に価値あるものかを産直市で試験販売し、商品の改良につなげています（志津見ダム）。

### 【観光・交流】 直接の体験（試食）を通して、都市住民の生の声を聞く。

- ・モニターツアーなどを実施することで、設定したターゲットやツアー内容が都市住民のニーズに合致しているかを把握していきます。

#### 《事例》

- ・地域資源を活用した体験ツアーの可能性を把握するためにモニターツアーを実施し、新たな体験プログラムの開発につなげています（小石原川ダム）。

## (7) 商品化【魅力ある商品を提供する】

水源地域の魅力を活用しながら、想定するターゲットのニーズに合致する商品化を図り、提供していきます。

### 【共通】 消費者のニーズに沿った適度なこだわりの商品をつくる。

- ・生産者のこだわりのみでは、商品を販売することは困難です。また、消費者のニーズに合致していても、その地域らしさがない商品を販売することは困難です。
- ・そのため、消費者のニーズを的確に捉え、その地域らしさがあるこだわりの商品を開発していく必要があります。

#### 《事例》

- ・地域の活性化の基本計画となる『水源地域ビジョン』に沿った取組を実施しています（日吉ダム）。
- ・地域の魅力を活かした『健康増進プログラム』を作成し、地域の宿泊施設で提供しています（日吉ダム）。
- ・水源地域活性化調査の際、鹿肉等を活用した特産品開発を実施したが、オリジナルブランドの確立が困難であるとともに、保健所等への申請が必要であるため、販売にいたっていません（平取ダム）。

### 【特産品開発】都市の商品開発・加工力と連携する。

- 地域内だけで商品開発ができない場合は、都市部の商品開発力や加工力を活用していくことも必要です。
- 消費者のニーズに合致していくためには、消費者のニーズをよく把握している企業と連携していくことが近道となります。
- 都市部の商品開発力や加工力を活用するにあたっては、水源地域が原材料の供給場所としての位置づけにならないよう留意する必要があります。

#### 《事例》

- 都市部の企業と連携し、地域で栽培された農産物を利用した商品の開発を行っています（嘉瀬川ダム）。

### 【特産品開発】ターゲットに応じて質や価格、量を設定する。

- 想定するターゲットや販売場所にあわせて、特産品の質や価格、量を設定する必要があります。
- 例えば、駅や空港などのお土産品として販売する場合は、持ち帰りやすく、パッケージのデザインがよい商品が好まれます。一方、道の駅や地元のスーパーなどで販売する場合は、ある程度の量があり、低価格な商品が好まれます。さらに、卸売業者を通して販売する場合は、適切な卸値の設定など、ターゲットや販売先によって、質や価格、量を決定していく必要があります。

#### 《事例》

- 地域のスーパーや道の駅などを調査し、地域で販売されている商品の特徴を整理し、特産品の内容や価格などを設定しました（嘉瀬川ダム）。

### 【特産品開発】複数の魅力を詰め合わせる。

- 1つの商品で地域らしさや消費者のニーズに合致しない場合は、複数の商品を詰め合わせることで、特徴のある商品に仕上げることができます。

#### 《事例》

- 地域内で生産されている特産品や農産物を『ふじから便』としてとりまとめ、商品の魅力を向上させて販売しています（嘉瀬川ダム）。

### 【観光・交流】好評の商品にこだわり、洗練させる。

- 消費者からの評判が良い体験プログラムなどは、品質を向上させ、リピーターの確保に努めましょう。

#### 《事例》

- 都市部からの参加者が多い『結婚活動支援事業』を継続しています（小石原川ダム）。
- 参加者からの評判が良いカヌー体験などを継続しています（川治ダム）。

## (8) 情報発信【商品の魅力を発信する】

水源地域の現状や取組内容をホームページや広報紙、マスメディアを活用して想定するターゲットに情報を発信していきます。

### 【共通】情報発信するための技術を身につける。

- 消費者に対して、効果的に情報を発信するためには、自らの言葉で地域や商品の価値を発信していく必要があります（外注して作成した情報媒体がよいとは限りません）。
- 発信にあたっては、地域の価値や商品に関するストーリーの確保や、全体の構成を工夫しましょう。

#### 《事例》

- 情報発信技術を身につけた担当者がホームページやフェイスブックなどで情報発信を行っています（嘉瀬川ダム）。
- 情報発信技術を身につけるためにホームページ作成等の研修を受講した上で、活動団体がホームページの管理・運営を行っています（小石原川ダム）。

### 【共通】ターゲットを絞った情報発信を実施する。

- 不特定多数にチラシを配るなど、取組内容やイベント情報を単純に発信していくだけでは、コストがかかるだけで想定するターゲットには効率的に届かない可能性があります。
- 情報を発信するにあたっては、想定するターゲットの嗜好を検討し、ターゲットが接触する媒体を用いて情報を発信していく必要があります。
- 例えば、アウトドアイベントを実施する場合は近郊のアウトドアショップにポスターやチラシを掲示する、食の試食会を実施する場合は料理の専門学校や料理教室に情報を発信するなど、効率的・効果的な情報発信を検討していく必要があります。

#### 《事例》

- プレスリリースなどを実施し、積極的にマスメディアを誘致することで、地域内外に活動内容を発信しています（川治ダム）。
- ホームページやSNS（フェイスブックなど）を活用した積極的な情報発信により、地域内外に活動内容を発信しています（嘉瀬川ダム）。
- ホームページの積極的な運営（Youtubeの活用など）により、本当に情報を必要としている人が見るツールによって地域の魅力を発信しています（小石原川ダム）。

## あとかき

水源地域における地域活性化活動は、水の安定的な供給のみならず『地域づくり』に結びつきます。そのため、地域の関係者が集まった組織を立上げ、地域の資源を全員で見直し、魅力を磨き、商品（体験プログラムや特産品など）を開発していきます。

1回の商品開発で順調に推進していくことは困難です。継続的に活動を実施していくためには、試作品の開発やマーケティングを継続的に実施し、商品の改良や、新規商品の開発を行っていく必要があります。

その際、価格を下げるのではなく、商品の魅力やサービスを向上させ、商品の価値を向上させていきましょう。これは地域の価値の向上にもつながります。

水源地域活性化活動は、1人で悩んでいても解決できません。

国土交通省では、行政、有識者（研究者、専門家等）、関連業界（食品、旅行業界等）、及び各地の団体（NPO 法人等）が、お互いの顔の見える関係の中で、問題解決を図るとともに、様々な知見や情報の双方向の共有を目的に『水源地域支援ネットワーク』を構築しています。

水源地域活性化活動の壁にぶつかった時は、お近くの自治体や国土交通省に相談してください。

### 【参考情報：水の里応援プロジェクト】

国土交通省では、水源地域（水の里）の維持や地域活性化に必要な取組を推進していくことを目的に『水の里応援プロジェクト』を実施しています。

具体的には、水の里の活性化のための取組のうち、『水の里』ならではの魅力を活かした特産品の販売や観光振興を目的とした、都市部へのプロモーション活動を関連業界と協力しながら実施しています。

『水の里』の特産品や観光資源をいわば『水の里ブランド』として位置づけ、現在、各地域で個別に取り組んでいるプロモーション活動を、全国の『水の里』が共同で行うことで、日頃、“水の安心や安全”の面で恩恵を受けている下流部の都市住民から『水の里』への関心や支援を喚起することを目指します。

詳しくは、『水の里応援プロジェクト』ホームページをご覧ください。

■水の里応援プロジェクトホームページ：<http://www.strata.jp/mizunosato/>

### 《国土交通省連絡先》

国土交通省 水管理・国土保全局  
水資源部 水資源政策課 水源地域振興室  
〒100-8918 東京都千代田区霞ヶ関2-1-3  
tel:03-5253-8392 / fax:03-5253-1583

